

精神障害がある人の入院期間を長期化させないための必要な支援に関する課題整理票

R6年度上越市障害者自立支援協議会_権利擁護部会 令和6年8月30日

区分	課題	既存の取組・支援等	必要な取組の方向性	部会での直接的な取組	部会以外での取組	優先順位(案)			
						高	中	低	
①病院と地域	・病棟の看護師を含め、各支援者の動きや視点・評価の違い、相互理解を図る機会が少ない。⇔③の役割分担の明確化と関連	・情報共有・退院に向けた、市を含めた関係機関と市内精神科病院との協議・連携	・入院時に退院後を見据えた打合せ、協働						
	・病院と地域での生活のギャップ、イメージの違いがある。	・病院における「退院プログラム(薬・金銭・食生活などの管理)」の実施	・退院前に外出支援を活用しながら地域移行を検討 ・一度退院し、地域生活を体験する機会の検討 ・医療スタッフ及び地域支援者間が各々で実施している生活アセスメントの評価のすり合わせが必要。合わせて、当事者及び支援者間の評価のすり合わせも必要						
	・H30の自立支援協議会で作成した生活能力評価票が活用されていない。	-	・支援者型のみで評価すること自体が権利侵害になるのではないかという意識を持った上、評価票のアップデート及び活用に向けた検討						
	・長期入院となると居心地がよくなり、退院に消極的になってしまう。 ・入院により患者が病院の環境に合わせてしまう場合がある。	・入院患者実態調査、630調査	・退院意欲形成のために早期介入が必要。 ・当事者の力の活用の可能性(ピアサポート) ・地域移行に向けて、家族へのアプローチ(家族からの支援も必要)に向けた検討 ・ピアサポーターによる一時的な面談等ではなく、地域生活開始後の伴走型支援 ・現状のピアサポーターの提供体制の理解と周知、活用						
	・申請前支援から地域移行にかけて、支援患者との関係づくりに係るバランスや移行のタイミングの判断が難しい。	・申請前支援…地域移行支援の申請前に包括が2~3カ月に1度程度訪問する ・地域移行支援…月に2回地域の支援者が病院を訪問する ・病院における「退院プログラム(薬・金銭・食生活などの管理)」の実施(再掲)							
②社会資源	・退院後の行き先や選択肢が少ない。 ↳ 受入事業所、不動産、GH・入所以外の選択肢 ・精神障害者を受け入れできる短期入所が少ない。	・地域生活支援拠点による対応 ・ビジネスホテル、インターネットカフェの活用	・既存のような形態の短期入所以外でも、落ち着ける環境として個室の空間の提供の検討 ・アパート型グループホームによる支援の検討(本人の自由+見守りによる支援) ・重度訪問介護の活用の検討						
	・入院生活では自力でできることが、地域移行後の生活ではできなくなることがある。入院中の環境との変化が小さい社会資源がなく、地域移行は難しい。	・病院における「退院プログラム(薬・金銭・食生活などの管理)」の実施(再掲)	・支援者が地域移行した人(長期入院者)の声を聞く機会(勉強会)の実施						
	・相談員が見つからないことを理由に、サービスを利用できない場合がある。		・地域移行に向けた相談員のスキルアップ(実際にケースを担当してみる)※相談支援部会と共有						
	・病院やワーカーによって対応に差がある。		・長期入院が権利侵害になることを踏まえた勉強会の実施						
③役割分担	・各関係機関の役割分担の明確化及びその共有が曖昧である。		・地域移行において、支援者や家族が不安に感じないような体制づくり(医療機関との連携強化) ・安心感につながるよう、病院の役割の一つとして、退院後の支援を継続する体制作り ・緊急時の体制作り ・退院後の支援として往診の活用を検討						
④入院中の処遇	・長期入院患者への面会制限(家族でも会えない、患者が地域支援者に会いたいと言っても会えない)	・上越地域病院連携担当者会議による面会の在り方についての整理							
	・本人の意向(退院希望)と保護者や関係者との認識のギャップにより、本人の意向に沿うことは難しい。		・就労支援IPSの考え方に添った支援(地域生活を希望したすべての方が対象で、生活する現場での支援)						